

中原中也賞選考委員の横顔 (五十音順)

荒川 洋治 <あらかわ ようじ> 現代詩作家

1949年福井県生まれ。早稲田大学第一文学部文芸科卒。詩集『水駅』（1975年）で第26回H氏賞を、1998年、『渡世』で第28回高見順賞を、2000年、『空中の茱萸(ぐみ)』で第51回読売文学賞を受賞。2001年、『荒川洋治全詩集』刊。2005年、詩集『心理』で第13回萩原朔太郎賞を受賞。2006年、評論集『文芸時評という感想』で第5回小林秀雄賞を受賞。2016年、評論集『過去をもつ人』で第70回毎日出版文化賞書評賞を受賞。2017年、詩集『北山十八間戸』で第8回鮎川信夫賞を受賞。2019年、恩賜賞ならびに日本芸術院賞を受賞。

井坂 洋子 <いさか ようこ> 詩人

1949年東京都生まれ。上智大学国文科卒業。1982年詩集『G I G I』で第33回H氏賞受賞、1995年詩集『地上がまんべんなく明るんで』で第25回高見順賞受賞、2003年『箱入豹』で第41回藤村記念歴程賞受賞、2011年『嵐の前』で第2回鮎川信夫賞受賞、2017年『七月のひと房』で第35回現代詩花椿賞受賞。主な詩集に『朝礼』『現代詩文庫・井坂洋子詩集』正・続『地に墜ちれば済む』、エッセイ及び評論に『夜の展覧会』『＜詩＞の誘惑』『永瀬清子』『はじめの穴 終わりの口』『黒猫のひたい』などがある。

佐々木 幹郎 <ささき みきろう> 詩人

1947年奈良県に生まれ大阪で育つ。70年詩集『死者の鞭』を刊行後、現在までに詩集、評論・エッセイ集など多数。84年米国ミシガン州立オークランド大学に客員詩人として招聘。主な詩集に『蜂蜜採り』（第22回高見順賞）『砂から』『悲歌が生まれるまで』、評論集に『中原中也』（第10回サントリー学芸賞）『自転車乗りの夢』『中原中也 悲しみからはじまる』、エッセイ集に『やわらかく、壊れる』『瓦礫の下から唄が聴こえる』など。2003年、『アジア海道紀行』で第54回読売文学賞（随筆・紀行賞）を受賞。2012年、詩集『明日』で第20回萩原朔太郎賞を受賞。『新編中原中也全集』編集委員。

高橋 源一郎 <たかはし げんいちろう> 作家

1951年広島県生まれ。1982年、小説『さようなら、ギャングたち』でデビュー。1988年、『優雅で感傷的な日本野球』で三島由紀夫賞、2002年、『日本文学盛衰史』で伊藤整文学賞を受賞。2012年、『さよならクリストファー・ロビン』で谷崎潤一郎賞を受賞。その他著書に『虹の彼方に』『ジョン・レノン対火星』『悪』と戦う』『ゆっくりおやすみ、樹の下で』『今夜はひとりぼっちかい?』などがある。

蜂飼 耳 <はちかい みみ> 詩人

1974年神奈川県生まれ。2000年、詩集『いまにもうるおっていく陣地』で第5回中原中也賞を受賞。2006年、詩集『食うものは食われる夜』で第56回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。2006年、神奈川文化賞未来賞を受賞。2016年、詩集『顔をあらう水』で第7回鮎川信夫賞を受賞。小説『紅水晶』『転身』、文集『孔雀の羽の目がみてる』『空席日誌』『おいしそうな草』など。童話『のろのろひつじとせかせかひつじ』など。2012年、絵本『うきわねこ』で第59回産経児童出版文化賞を受賞。立教大学文学部教授。